

元弘三年七月日

右書ノ口ニ如此有之
奉行人藏人式部少輔

〔薩摩風土記〕鹿兒島と申候は、西に山をかたどり、東南は海なり、北は日本の地つゝき也。御屋形

は山の前、まへどふりは大身の武家方也。圖略○圖の如く、上野六丁やかたの北にあり、武家やしきを中にして南を下町といふ、十二町有、町も武家多し、此外山西に西田町あり、西國道中の入口也。

〔日本書紀通證〕重遠曰、大隅國熊毛郡熊毛神社、俗傳齋彦火火出見尊、神名帳曰、桑原郡鹿兒島神社傳言亦齋彦火火出見尊、今按、三代實錄、薩摩國鹿兒島神、或曰鹿兒島籠島也、以無目籠得名。

〔西遊雜記〕鹿兒島南北凡三十町計、西の方山連々とし伊集院といへる所より五里、此道は小山のたきを街道とし、左右の各々村里多し、此故に鹿兒島に入るに下り坂あり、南は海西の山際より三五丁、又八町計もあらん歟、せまきやふに見え侍りし也、東北の間白銀坂より、入口は嶮しき坂道、上下三里餘所によりて屏風を立しごとく也。中略○中鹿兒島の要害がため、最上の地といふべし。

〔佐藤元海九州記行〕鹿兒島ノ城下ハ、南北凡ソ三十一丁、東西ノ長ク入江多シ、市井殷富、士俗鎌倉時代ノ遺風アリト云フ、札辻ヨリ東ナル潮入ノ川ニ橋ヲ架シテ往來ニ便ス、町家ノ南三番所モ有リ、海濱ニハ船番所アリ、潮入ノ川多クシテ、町家ハ所々ニ有リ、新橋ト云フヲ渡レバ、本城ニ至ル、此都城ハ、屋形造ノ城ナリ、

〔薩摩國圖田帳〕薩摩國、注進國中總圖田帳略○中

殿下領島津御庄、二千五百五十六町一反書中略、朱

山門院二百町内島津御莊寄郡老松庄、二十四町四段安樂寺中略○日置庄三十町下司北勒勒寺下司小野太郎家綱略○中